

研究課題 (テーマ)	トピックゼミを組合わせた事前学習型企業見学による 県内定着率向上に向けた取り組み		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	機械システム工学科	教授	真田和昭
			機械システム工学科全教員
研究結果の概要			
<p>本プログラムでは、機械システム工学科2年生(必修科目「トピックゼミ」)を対象に、県内企業12社による「企業研究」を中核としたキャリア形成支援を実施した。教育効果を最大化するため、全講義において「事前学習(企業調査・質問準備)」「企業研究(第一線のエンジニア等による講演)」「事後学習(専門科目との関連付け)」のサイクルを徹底した。また、県内定着率向上に向けた新たな取組として、保護者に県内企業の良さを知ってもらい学生の県内就職を検討して頂く目的で、保護者を対象とした企業見学会を試行的に実施した。</p> <p>トピックゼミ1(前期): 企業研究6回 トピックゼミ2(後期): 企業研究6回, マイナビセミナー1回(インターンシップへの円滑な接続目的)</p> <p>保護者を対象とした企業見学会(試行的に4社を見学 3月14日2社, 21日2社)</p> <p>年間計12回の体系的な学びを通じ、県内ものづくり企業の認知度向上と将来的な地元定着に向けた強力な動機付けを行った。</p> <p>申請時の目標である「本取り組みに対する『良い』の評価50%以上」および「翌年のインターンシップ選択に対する有効性の『良い』の評価50%以上」に対し、学生アンケートの結果、事前・事後学習を伴う本企業研究の取り組みに対し80%の学生が肯定的な評価(「良い」以上)を回答し、当初の目標である50%を大きく上回る成果を得た。さらに、次年度のインターンシップ選択に対する有効性についても、86%の学生が「有効である」と回答しており、両目標ともに達成基準を大幅にクリアする結果となった。定性的効果としても、早期(2年次)にエンジニアから直接学ぶ機会を設けたことで、専門科目を学ぶ意義と実社会との繋がりが明確化された。さらに、学生がこれまで知らなかった県内優良企業への興味が飛躍的に高まり、令和8年度のインターンシップ単位化廃止を見据えた状況下においても、多くの学生が3年次で県内企業でのインターンシップを積極的に検討する意識改革に繋がった。さらに保護者を対象とした企業見学会では、年度末で参加者は少なかったが、企業の強みや特徴を知ることが出来て良かったことや、学生と就職について一緒に考えることが出来る等の意見があり、好評でぜひ継続してほしいとのことであった。これは最終目的である「県内定着率の向上」に直結する高い教育効果である。</p>			
今後の展開			
<p>[1] インターンシップ参加状況の追跡と接続強化 本プログラム受講生の3年次でのインターンシップ参加状況を追跡し2年次(事前学習)から地元就職へ至るキャリアパスの接続をより強固にする。</p> <p>[2] 単位化廃止を見据えたプログラムの最適化 インターンシップが単位認定されなくなる令和8年度以降においても、学生が自主的に「県内企業を知りたい」と動くための強力なインセンティブとなるよう、講義内容や企業選定を継続的にブラッシュアップする。</p> <p>[3] 産学官連携による業種分野の拡大 機械系学生のニーズが高い医薬、食品、化学系企業等へと連携の幅を広げ、多様な進路希望に応えるとともに、地域一体となった「富山で学び、富山で働く」好循環の拡大を目指す。</p>			

(様式1)【ホームページ掲載用】